

関西日本ラトビア協会 第8回 総会

平成28年7月12日
大阪マルビル第一ホテル

【式次第】

総会 (17時30分 開会)

主催者挨拶 石橋 民生 理事長 (在大阪ラトビア共和国名誉領事)

事業報告・監査報告 事務局・監事

講演会 (18時00分)

【講師】前ラトビア共和国 特命全権大使 多賀 敏行氏

【演題】「駐ラトビア大使としての3年間 その思い出」

【略歴】1950(昭和25)年三重県生まれ。一橋大学法学部卒業後、ケンブリッジ大学法学修士号取得。74年外務省入省後、在ジュネーブ日本政府代表部公使、在バンクーバー総領事、宮内庁侍従、東京都庁知事本局儀典長、チュニジア大使などを歴任し、2012年から2015年までラトビア大使を務める。現職は大阪学院大学外国学部教授。外交官の経験を活かし在任中から著書も執筆し、主な著書に「外交官の『うな重方式』英語勉強法」(文春新書)がある。

懇親会 (18時45分 開宴)

乾杯 上野 慶三 常務理事

ゲストの紹介・スピーチなど

中締め 東郷 武 会長

第8回 関西日本ラトビア協会 総会 資料 (平成28年7月12日)

1. 平成27年度 事業報告 (平成26年4月1日～27年3月31日)

4月	関西学院大学とラトビア人留学生への奨学金協定を締結 アリセ・ストガさんへ奨学金支給①
5月	関西日本ラトビア協会ホームページを開設
6月	第7回関西日本ラトビア協会理事会・総会を開催② 「夏至祭」を宝塚・東郷会長邸にて開催 関西日本ラトビア協会会報(9号)を発行
7月	ダービス・ケムレルスさん(専門学校生)へ奨学金支給③
8月	「日本語学習者訪日研修」にイエワ・グリブステさん(ラトビア大学)を招待④ フレイベルガ元大統領ご夫妻来日アテンド⑤ 第2回ラトビア産業視察団(17名)がリガを訪問⑥
9月	早稲田大学留学生シグネ・ザハラカさん(ラトビア大学)へ奨学金支給⑦ クワクレ奏者ライマ・ヤンソーネさん来日公演サポート⑧
1月	「新年会」を宝塚・東郷会長邸にて開催
3月	在ラトビア日本大使館主催「日本語弁論大会」優勝者に航空券を賞品として提供⑨ レーニスさん送別会(長浜ロイヤルホテル)開催
その他	トークサロンを毎月開催⑩

2. 収支報告書 (平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(単位:円)

		今年度	前年度
前期繰越金		5,727,824	516,146
収 入	入会金・年会費(個人)45名	314,000	423,000
	入会金・年会費(法人)100社	6,300,000	6,800,000
	総会・イベント等会費収入	547,000	339,000
	受取利息等	1,094	456
	合計	7,162,094	7,562,456
支 出	総会・トークサロン等イベント開催費	1,679,436	1,286,732
	留学生への奨学金(3名)	1,624,860	100,000
	日本語弁論大会賞品提供費	194,614	0
	日本語研修生招聘費	329,071	0
	ホームページサーバー管理費	201,744	525,312
	会報発行費	216,324	193,413
	雑費・交際費	11,872	245,321
	合計	4,257,921	2,350,778
次期繰越金		8,631,997	5,727,824

3. 監査報告

収支報告書につきましては、監事・寺岡志郎氏、近久啓太氏に監査いただきました。
適正に処理されているものとしてご承認いただいております。

4. 28年度事業計画

昨年度同様に留学生の支援やラトビアのPR活動を行い、日本とラトビアの友好に寄与します。

- ・ラトビアからの留学生の支援
- ・日本の高校生をラトビアへ短期留学（ホームステイ）派遣
- ・ラトビア語教室の開講
- ・ラトビアトークサロンの開催
- ・ラトビア大使館への協力（来日VIP・音楽家のサポート）
- ・在ラトビア日本大使館への協力（弁論大会賞品寄贈ほか）
- ・ラトビアを紹介するイベント等への協賛

5. 28年度収支予算（案）（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

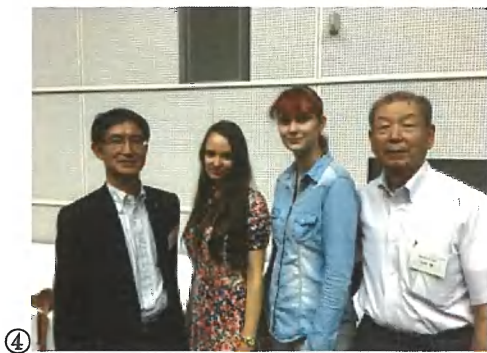
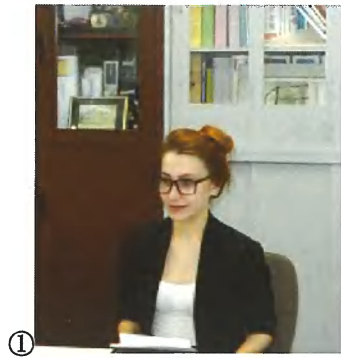
（単位：円）

前期繰越金		8,631,997
収 入	入会金・年会費（個人）	250,000
	入会金・年会費（法人）	6,000,000
	総会・イベント等催事会費	610,000
	受取利息等	1,000
	合計	6,861,000
支 出	総会・トークサロン・イベント開催費	800,000
	イベント協賛・寄付	500,000
	留学生（大学生）への奨学金（7名・月額6万円・12ヶ月）	5,040,000
	ラトビア短期留学派遣（高校生対象）	300,000
	国際交流基金日本語研修	350,000
	日本語弁論大会賞品（航空券等）	200,000
	会報発行費	250,000
	ホームページサーバー管理費	210,000
	雑費・交際費・予備費	900,000
合計	8,350,000	
次期繰越金		7,142,997円

【会員状況】（H28.6月末現在）

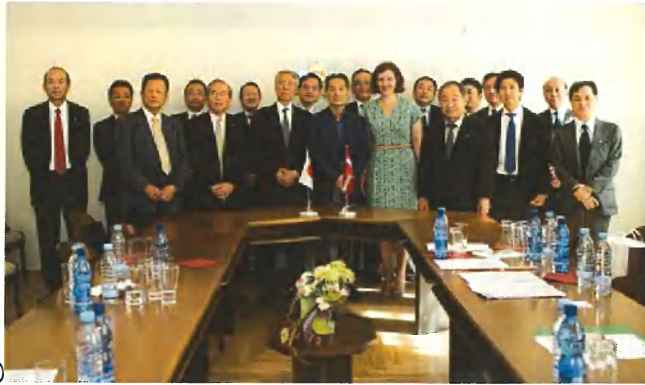
個人 99名（退会34名 入会7名）

法人 105社（退会4社 入会1社）





⑤



⑥



⑧



⑨



⑩





平成 28 年度の奨学金対象の学生の皆さん



リガ室内合唱団の大阪公演をサポート



ラトビア語教室をスタート



高校生の短期ラトビア留学事業を企画

2016年7月12日

「駐ラトビア大使としての3年間 その思い出」

多
賀 敏行

2012年12月にラトビアに着任、2015年11月に離任、帰国、12月に外務省退官。本年4月より、大阪学院大学外国語学部教授として、英語と国際情勢を教える。

ラトビア在勤3年間のうち、最後の1年（2015年）については、以下の資料に沿って説明しながら、日本の大使として、日本人個人として感じたことを付け加えます。

【資料】2015年のラトビア 回顧と展望

(1) 国内政治・経済

2015年上半期、ラトビアは、ストラウユマ内閣のもとでEU議長国として、各種非公式閣僚会合を含む多くのEU会合のほか、東方パートナーシップ・サミット、ASEM教育大臣会合、ASEM交通大臣会合といった大規模会合を成功裏に実施し、国際的な評価を高めた。

7月、ベルズィンシュ大統領の任期満了に伴い、大統領選挙が行われ、ベーヨニス国防大臣が選出され、大統領（任期4年）に就任した。

国内政治では、難民の受入れをめぐる連立与党間で足並みの乱れが露呈したほか、与党「統一」内での主導権争いによる不協和音から政局が流動化し、2016年予算成立後の12月上旬、ストラウユマ首相が突如辞意を表明した。混乱が懸念されたが、翌2月、連立与党の3党の枠組が維持された形でクチンスキス新内閣が成立し、前政権の基本政策が承継されることとなった。新政権には、欧州難民問題への対応、安全保障政策、教育・医療・保健改革等での運営手腕が期待される。

経済面では、2015年のラトビアは2.8%の成長率を達成するなど、地域の地政学的環境の悪化やロシアによる禁輸措置などの影響が懸念される中でも、引き続き安定的な成長を維持した。ラトビア中銀は、2016年も2.7%の成長を予測している。国内ガス市場の自由化を推進するためのエネルギー法改正案が、2016年2月に可決・成立した。2017年4月までに、現在国内ガス市場を独占するラトビア・ガス社が分社化されることとなった。

(2) 対外政策

2015年、ラトビアは上半期のEU議長国として、積極的な外交政策を推進した。特に対露関係など地政学的環境が変化する中、引き続き、EUとして東方パートナーシップ6か国との協力枠組を継続していくことを確認した東方パートナーシップ・サミットの成功は評価できる。

安全保障をNATOに依存するラトビアは、他のバルト諸国、ポーランド等とともに、ウクライナ危機以降、

各部隊がローテーションで訓練を実施することで維持してきたバルト地域へのNATO軍地上部隊のプレゼンスを、より安定的で恒常的なものとするための外交努力を継続しており、その一環で、2018年までに国防関連予算を対GDP比2%にまで引き上げることによりコミットしている。地政学的環境が悪化する中、2016年7月のNATOワルシャワ・サミットにおいて、明確な成果を得られるかが注目される。

(3) 我が国との関係

2015年、EU議長国期間中の4月、菡浦外務大臣政務官がラトビアを訪問し、リンケービッチ外相らと会談を行った。また、同月、当地で開催されたASEM交通大臣会合には北川国土交通副大臣が出席した。

ラトビアからは、8月にフレイベルガ元大統領が東京で開催されたWAW! 2015にスピーカーとして出席したほか、10月にはリンケービッチ外相が訪日し、外相会談が行われるなど、活発な要人往来が行われた。

議員交流では、11月、日ラトビア友好議員連盟会長を務める中曽根弘文参議院議員が当地を訪問し、国会議長ら要人と会談を行ったほか、長年の両国交流への貢献により、ベーヨニス大統領からラトビア国家勲章を授与された。

勲章といえば東郷武氏も、昨年、平成27年6月16日に開催された関西日本ラトビア協会総会においてノルマンス・ペンケ駐日ラトビア大使よりラトビア国家勲章が贈呈された。これは在大阪ラトビア共和国名誉領事ならびに関西日本ラトビア協会の理事長として、日本国内においてラトビアに関するプロモーション活動に従事し、両国の関係を深めることに尽力された功績が認められたものである。

人物交流では、9月、内閣府青年交流事業が実施され、日本とラトビアの青年が両国を相互訪問した。

経済関係では、9月、石橋在大阪ラトビア名誉領事を団長とする関西地方からの経済訪問団の来訪があった。

日本人観光客は増大傾向にあり、2015年は対前年比で70%余り増加して、初めて2万人を超えた。

以上